外為どっとコム総研
外為トゥデイ
Daily
主要通貨の日々の推移をわかりやすく解説し、今後の見通しをお届けします。

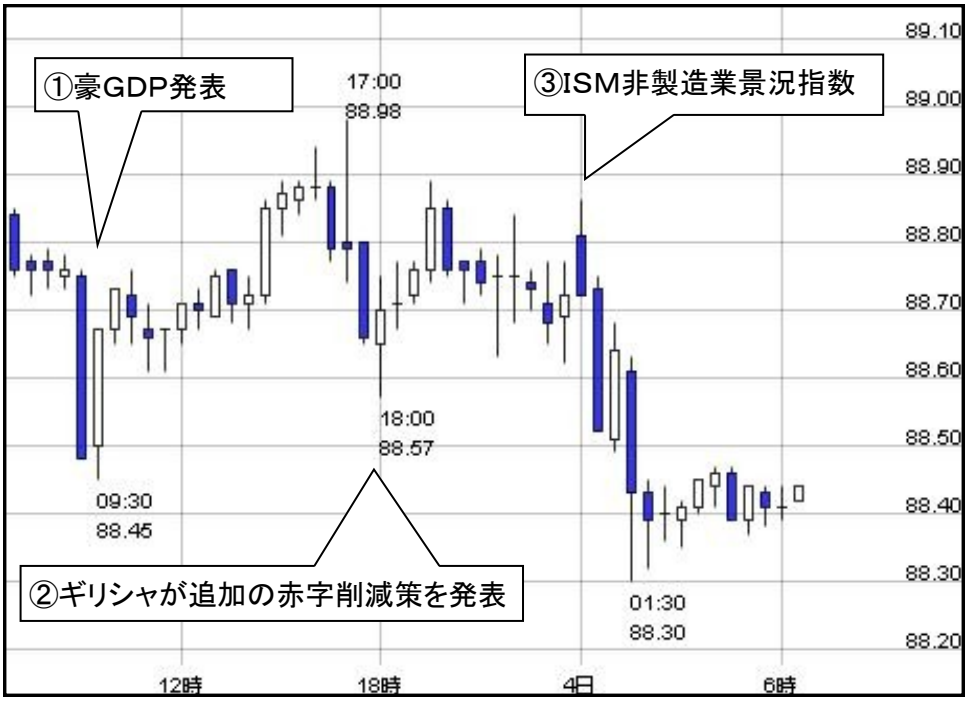
3月4日（木曜日）
ドル/円

米雇用統計前の中休み？

3日（水）の主な推移

ダウ平均株価
10396.76ドル （-9.22ドル）
米長期金利（10年債利回り）
3.6192% （+0.0113%）
NY原油先物
80.87ドル （+1.19ドル）

チャート：30分足　3日（水）朝7時 ～ 4日（木）朝7時



※チャートは30分足　日本時間にて表示　※左表は終値ベース、( )は前日比
出所：外為どっとコム

①	ドル/円はポンドやユーロに対して円が上昇するに連れ、一時88.45円まで下落した。ただ、9時30分に発表された豪第4四半期国内総生産（GDP）が四半期比で+0.9%と予想通りだったものの、前年比が市場予想を上回り、前回発表値が上方修正されたことが徐々に評価され、豪ドル/円が上昇すると、ドル/円も反発した。
②	本邦輸入企業とみられる円売り・ドル買いなどを背景に一時88.98まで上昇したが、89.00円に近付くと上値が重く、反落。ただし、18時過ぎに発表されたギリシャの48億ユーロの追加緊縮財政措置を受けてユーロ/円が反発すると、ドル/円も連れて上昇に転じた。
③	22時15分に発表されたADP全国雇用者数は-2.0万人と、市場予想通りだったことで影響は限定的なものに留まったが、24時に発表されたISM非製造業景況指数が53.0と、市場予想の51.0より強い結果だったことから、リスクを取ることへの積極性が高まり、ユーロ/ドルでドル安が進行。これを受けてドル/円でもドル安が進み、ドル/円は88.30円まで下落した。

巻末の特記事項を必ずお読みください。

上昇要因(ドル高・円安)

・米国経済の回復
・米長期金利の上昇
・米国の超低金利政策の長期化観測の後退
・金融市場全体のドル売りムードの緩和
・日銀の追加資金供給
・日本の財政赤字への懸念

下落要因(ドル安・円高)

・米金融規制案への懸念
・米国の超低金利政策の長期化観測
・米長期金利の下落
・米国経済の回復の鈍化
・外貨準備通貨としてのドル需要の減退
・米財政赤字悪化懸念の高まり
・金融市場全体のドル売りムードの高まり

本日の見通し

本日の予想レンジ: 87.70-89.40円

本日発表の米経済指標の中で、材料視されそうなのは週次の新規失業保険申請件数のみ。基本的にはこれを受けて株価や米長期金利がどのように動くかが、本日のドル/円の方向性を決定する要因になるもとの考えられる。ただ、明日に1カ月の中でもっとも注目度の高い米雇用統計の発表を控えて、相場が大幅な変動をみせる公算は小さい。米雇用統計の見通しを修正し、ポジションを調整する程度の動きとなろう。

ただ、引き続きギリシャ救済に関する話題には注意したい。ギリシャは3日に追加の財政赤字削減策を発表したが、今後この対策を同国の議会で通す必要がある上、世論の反発も強い。昨日はこの対策を好感して一旦上昇したユーロ/ドルが、実効性への疑問から反落(つまりドル高)となれば、ドル/円でもドル高が進行する可能性がある。関連報道には注意したい。

本日の注目イベント

※注目度が高い順に「◎」「○」「無印」で表示　時間は「日本時間」

日付	時間	注目度	経済指標、イベント等	前回発表数値	市場予想
3/4(木)	21:00		(英) BOE金融政策発表	——	——
	21:45		(ユーロ圏) ECB金融政策発表	——	——
	22:30	○	(米) 2/28までの週の新規失業保険申請件数	49.6万件	47.0万件

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。また、※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではございませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された 意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。
Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com